



今年度、3回目の「不登校を考える学習会」は、 木村 素也 先生を招いての講演会と交流会を行いました！

実施日：2019年11月23日（土）

場 所：小郡市人権教育啓発センター

木村素也さん（不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」会長）から、「不登校支援の輪を広げよう～不登校の何が問題なのか・不登校を難しくしているもの～」という演題で講演をしていただきました。講演の中で話されたことを紹介します。

**【不登校が問題なのではなく不利益になることが問題。
だから、不登校が不利益にならない体制づくりを！】**

「きついなら学校に行かなくてもいいよ。」だけでは無責任な言葉になってしまう。子どもも親も、学校に行かなくなった時に生じる不利益を知っている。だから、何とか学校に…という思いをもつ。学校に行けていなくても、目標をもたせることや、目標達成のための情報発信・不利益を感じさせないような体制づくりが必要。



【木村 素也 先生】

不登校によって生じる不利益

- 勉強の遅れ
 - ・勉強の遅れは復学の阻害要因になる
 - ・進路選択の幅が狭まる
- 他人と接する機会の減少
 - ・コミュニケーション能力
 - ・生活の乱れ（昼夜逆転・ゲーム依存）
- 自己肯定感の低下
 - ・不安をあおる言葉（よかれと思ってかける言葉も…）
- 「不登校」のレッテルが解決を難しくする
 - ・間違った認識（何もできないとい誤解する）
 - ・周囲は将来の心配をするが、本人は今のことしか考えられない



「今、学校に行かなくても不利益ではない」という体制づくりや情報発信を！

- 成長モデルの提示を
 - ・不登校経験者でも、自分の目標を達成できた子はたくさんいる。特に教員は、そんな子どもたちとつながって安心できる情報発信をしてほしい。
- 子どもは、家庭・学校・地域で生きている。キーポイントは地域
 - ・例えば、公民館で学習や卓球などができる場所を提供しながらコミュニケーションを

不登校を経験した方への、インタビューコーナーもありました。



とにかく「教室に行こう」が嫌だった。気持ちはうれしかったけど受け入れきれなくて…。うれしかったのは「逃げ場」をつくってくれたこと。「ここまででもいいよ。」とかは気持ちが楽になったのを覚えていた。



【参加者と木村先生を囲んで交流会も行いました】

○ 参加者のアンケートより

- ・不登校を問題にしているのは、私自身だったと改めて気がつきました。「不利益」にならないよう子どもができることを提案していきたいです。
- ・不登校によっておきる「不利益」と向き合って考えていこうと思いました。無理な時は休みを取り、ゆっくりとリフレッシュさせてあげたいと思いました。